

2023年8月2日

東部医師会 会員施設の皆様へのお願い

新型コロナ感染症が5類に変更となり、元の生活を徐々に取り戻し始めましたが、7月下旬より鳥取県東部でもコロナ感染者数が増加しだしてまいりました。8月2日現在の入院患者数は、日赤：23人、市立：11人、県中：22人、ですが、さらにお盆に近づくにつれて感染者数、入院患者数も増加していく予想です。

入院患者の内訳として、3病院はいずれも中等症Ⅱ（SpO<sub>2</sub>93%以下で酸素必要）以上の患者を担当することが決まっておりますが、実際には食欲低下（脱水）や心不全を併発したコロナ軽症患者が半数以上を占めており、3病院ともコロナ患者の入院病棟・病室を確保するため、一般患者が入院できる病棟・病室が減少し、3病院ともいわゆる病床ひっ迫が生じ始めております。このような状態で重症者が搬送されてくると、そちらに手を取られ、他の患者への対応が後手後手になってしまうことを危惧しております。

5月8日以降、そのような軽症患者や中等症Ⅰ（93%<SpO<sub>2</sub><96%で酸素必要なし）患者は、各医療施設や高齢者施設で対応していただくことを保健所からも要請されていたと思いますが、実際には高齢者施設からも紹介され、やむなく入院させているのも実情でございます。

この度、3病院の院長で相談いたしました。高齢者施設の先生方には大変かと存じますが、できるかぎりそれぞれの施設で軽症患者（一部中等症Ⅰ患者も含）の対応をお願いしたいと存じます。また、診療所の先生方に置かれましても、上記3病院へのご紹介は中等症Ⅱ以上の患者を優先していただくことをご検討いただけましたら幸甚でございます。

さらに、3病院で急性期を脱し全身状態が改善したり、酸素投与等が不要となった患者は、後方支援病院として転院受け入れをお願いしたいと思っております。

お願いばかりで恐縮でございますが、東部圏域でのコロナ対応について、病床ひっ迫による通常医療に弊害が出ないように、全員で協力していただきますよう伏してお願い申し上げます。

鳥取赤十字病院・院長 竹内裕美

鳥取市立病院・院長 大石正博

鳥取県立中央病院・院長 廣岡保明